

大津市の6つのキーワード

1. 学び合い(協同的な学び) 2. 道徳教育の充実 3. 体力づくり 4. 指導改善(組織的・計画的) 5. 育ちと学びを支える連携 6. 組織的体制の充実

学校教育目標

「明朗 健康 自主自立」

今年度の重点目標

1. 人間関係形成力の育成 2. 基礎学力の確実な定着 3. 不登校児童の解消

大項目	中項目	小項目	自己評価(全教員による評価と平均値)		学校関係者評価		今後の改善に向けて	
			小項目の平均	中項目の評価	中項目の評価	意見・提言等		
協学的な学び	学級・学年づくり	学級目標を設け、支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを実践しているか	2.5	2.2	一人ひとりの学習の状況を見取りながら、学習に対する肯定的な感情が育つようにさらに指導の工夫を心がけていきたい。・高学年の子どもたちが、全校的な視野にたってリーダーシップを発揮できるように引き続き指導していきたい。	2.8	・「学ぶ楽しさ」やしんどい子どもにも視点を置いて学習を工夫している。 ・どのクラスにおいても話す力、話し方を意識して授業に取り組みされているように感じた。 ・家庭学習の宿題について子どものアンケートでも評価が低かったのが気になる。家庭学習の習慣化から自学自習できる力へつなぐことが大切だ。保護者との日々の連絡が必要だ。 ・個を大切にしながら学級経営をしている。基礎基本の力は幼児期からつけていく必要がある。 ・放課後ステップアップ教室はすばらしい取り組みである。	・「心を育む教育」の土台の上に「学力向上」があると考えるので、心の居場所づくり、学習規律、学習環境整備など総合的に考える。
		基本的な生活習慣と学習のきまりの定着を図ることができたか	2.0					
		心の居場所づくりができていくか	2.0					
	基礎・基本の習得	学習習慣や基礎・基本的な学習内容を確実に身に付けさせているか	2.1	2.1	・家庭学習の手引き作成、放課後のステップアップ教室、寺子屋事業への協力、自由研究相談日の設定などの学習の質的、量的な改善をおこなってきた。 ・あきらめない、粘り強く取り組むのが苦手である。	2.5	・基礎学力の充実を目指して、「石山タイム(仮称)」の学習資料の充実など指導計画の見直しを行っている。	
コミュニケーション能力の育成に努めているか		2.2						
家庭学習を習慣化させることで、確かな学力の定着と向上を図れているか		2.0						
道徳教育の充実	資料の整備、充実と活用	生命を尊重する心や人権尊重などの道徳的実践力を育てる活動の実施に努めているか	2.2	1.9	・教材・資料が整理が不十分である。道徳の参観で全校公開している。「わたしたちの道徳」について、利用方法や教科化に向けた教科書の在り方など不透明な部分がある。また、学校生活の中で、児童の人権意識は高いとは感じにくい。	2.1	・人権意識を向上させることが「いじめ」をなくすことにつながると思う。地域の高齢者との関わりなどを通じてでも何か出来るのかと思う。 ・道徳教育の授業と日常生活で身につけていけるとよい。 ・家庭の教育力を高めることに働きかけると共に学校で道徳を通して心にひびく指導を努めていくべきと思う。 ・心の問題を親のしつけ等にかかわることが多い。常に教職員も言動などささいな言葉に注意し、素直な心を育てる取り組みをしてほしい。 ・子ども自ら行動できるように取り組みを！ ・「人権かるた」で石山小での創意工夫の取り組みがわかった。	・自作教材、資料の保管・整理を行う。 ・全教育活動において、特に「6つのやくそく」を中心とした道徳教育を意識しながら取り組む。
		道徳教育推進教員を中心として、道徳の授業研究や資料の開発・交流を行っているか	1.6					
		児童の感性や言葉の力を育む読書の推進が図れたか	2.0					
	体験活動(感動体験)	地域資源の教材化や人材活用・外部講師の招聘などによる体験活動の充実が図られているか	1.9	2.0	・地域の人材活用という面では、一定の成果が上がっているが、石山寺や滋賀大など石山学区独自の地域資源の教材化が不十分である。	2.4	・感動体験を伴う活動や、人間関係作りを行う手立てを実施する。 ・出前授業、施設利用など多岐にわたる滋大との連携を模索する。	
		活動前・中・後の指導の充実が図られたか	2.0					
		豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力の基盤、成長の糧としての役割が果たしているか	2.0					
体力づくり	体力づくりの取り組みと工夫	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めているか	2.0	2.0	健康づくりに関わる学校としての共通理解や、重点的な取り組みを考慮する必要がある。体の軸ができていない子は、じっと座れないと言われている。 ・一部家庭的な支援が必要な児童もいるが多数の児童は安定している。	2.3	・入学してすぐの中1は、部活のトレーニングや体育のアップトレーニングについていけず、歩いてしまう子どもが多い。 ・全国的に体力の低下があり、幼少期から取り組む必要性を感じている。保幼小の連携の中で工夫して改善に努めたい。 ・体力づくりは毎日しっかり取り組むこと必要。機会と環境作りを努めてほしい。個々の児童の体力差を十分考えて取り組んでほしい。 ・給食を残さず食べることは大事である。ばくばくもりもり委員会は良い取り組み。食に関することに意識化できて、いいきっかけ。ネーミングもよい。	・一年を通して、縄跳びを一つの柱として体力づくりを目指す。 ・新体力テストの結果を体力向上委員会で検討し、指導方法の研修を行う。
		進んで自分の体を鍛えようとする環境づくりができたか	1.8					
		運動の楽しさを味わい、進んで親む児童が増えたか	2.0					
	食育・保健・安全指導	食に対する正しい知識や関心の育成が図られているか	健康な生活の習慣化を行うことができたか	1.9	1.9	・給食について、児童の委員会活動を中心として、昨年度以上に食育に対する意識が高まった。 ・保護者の安全への意識が高く、要望も高いものがある。安全指導や管理のさらなる向上が必要である。	2.5	・学校保健委員会で実態を踏まえた健康教育について考える。児童の委員会活動を通して食育、健康、安全の面的確かな判断ができる能力を育てる。
平素から学校全体で安全管理、安全教育、健康指導の充実、徹底が図られているか			2.0					
指導の工夫改善	校内研究	基礎的な言語事項・伝え合う力を高める言語活動・言語環境が充実できたか	2.3	2.3	・「しっかりと話せる、しっかりと聞ける子を育てる」ということを主眼に取り組んできた。そのための基盤としての言語活動・言語環境の充実が図られた。 ・石山小独自の学習スタイルが、おぼろげながら確立しつつある。	2.7	・各学年ごとの結束力を感じる。 ・多面的な子どもや家庭を見て受け入れ、工夫されている。 ・帰りの会の時みんなの前で話す聴くということをきちんとできるように努力していた。もう少し声が大きくなればもっとよい。 ・言語活動に関する掲示物など環境を整えられていることが素晴らしい。 ・教科担任制や学年担任制はさらに進めることが大切。多くの人で子どもを育てていく視点がよいと思う。学年集会所も定期的に開催することも大事である。 ・若い先生方が増える中、教材研究等互いに協力し、授業公開等しっかり取り組んでほしい。	今年度引き続き、話し合いの能力の育成に努めたい。学力向上策の一つとしてとらえ研究を推進したい。
		積極的に思いや考えを「発表する力」や思いや考えを受け止めるための「聞く・聴く力」を育成できたか	2.2					
		指導力向上のために校内研究や校外での研修会への参加を積極的にしているか	2.4					
	学年担任制	教員との人間関係の広がりや学習の深まりによる子どもたちの成長が見られたか	2.3	2.4	・学年の担任団で学年全体の子どもたちと関わりを持つことは進んでいる。特に高学年では、理科・書写等の教科指導を担任外の職員が関わり、情報交換、連携に取り組んできた。単元単位で交換授業にも取り組んで子どもたちとの関わりが深まった。	2.8	・高学年では、引き続き理科・書写等の教科指導を担任外の職員が関わり、情報交換、連携に綿密に取り組んでいく。	
		職員のチーム意識が高まり、多面的な児童理解に基づく組織的・協力的な指導が充実できたか	2.5					
		教員の専門性や持ち味を生かし、質の高い指導ができたか	2.2					
支えらる連携	家庭・地域との連携	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会を実施しているか	2.5	2.4	・情報発信については、保護者からは、高い評価を得ている。項目によっては、子どもと保護者の意識の差があるので、発信の仕方に課題がある。 ・校外学習等において随時ホームページを更新しているも認知されてきた。	2.9	・連携よく交流・学習ができていく。出前授業、小6の中学参加等もスムーズであった。更に保育者と教諭の情報交換、細かく病気などの流行情報、日常活動での取り組み等を進めると効率化を目指すことが大切。 ・5・5交流以外に先生方とたくさん関わりがあり、子どもたちは小学校に期待して通えるように思う。中学校で歌をきいた小学生、幼稚園児が聴いた6年生の歌、よいつながりを持たせていただいた。 ・校園連絡会を中心に「Iism」の考え方が地域との連携につながっている。「石山の子は石山で育てる」幅広い取り組みを続けてほしい。 ・今年は地域懇談会があった。とても良いので継続してほしい。	・プレスリリース、HPの更新を引き続きに数多く取り組む。 ・寺子屋事業(社協)に積極的にかわかり、家庭学習の充実に取り組む。 ・生徒指導・教育相談での校種間連携だけでなく、英語などの教科での連携も考えていく。 ・定期的「石山小中連携会議」を定例化していく。
		保護者(PTA)・地域と連携を取りながら、安心・安全な学校作りを目指しているか	2.4					
		保護者の子育てに対する支援や悩みを聞く教育相談を実施しているか	2.3					
	保幼小中の連携	子どもの校種間交流や教員の出前授業等実施できているか	2.3	2.2	・出前授業や5・5交流や石中への補習学習や石山フェスタと職場体験学習発表会、入学説明会への6年生の参加などスムーズに連携ができた。	3.0		
校種間の定期的な連絡会や合同研修会を実施しているか		2.3						
校種間の授業公開や一貫的なカリキュラム研究などを積極的に行っているか		2.0						
充組体的体制の	生徒指導・教育相談機能の確立	石山小のあいことばを共通理解、共通実践できているか	2.4	2.5	・組織だった取り組みができていくが、子どもたちの実態からは、規範意識の未確立、道徳的実践力・判断力、生活習慣が未定着な部分が見られる。生徒指導とあわせて「豊かな心の育成」の充実が必要である。	2.8	・生徒指導の基本的組織的な対応はしっかりできている。子どもが「いじめをしない」と言っていることがすばらしい。 ・ゆるキャラの活用など子どもたちが取り組みやすい方法でいじめ対策などに生かされている。 ・あいことばの共通理解から次は生活の中で実践に結びつけていけるとよい。	・今年の体制を維持しつつ、落ち着いた雰囲気のある学校づくりに励む。 ・引き続き、支え合い切磋琢磨し合う職場づくりを推進する。
		生徒指導、いじめ対策の組織的な対応と継続的な指導ができていくか	2.6					
		SC関係機関と連携した教育相談の充実ができていくか	2.4					
	特別支援教育の充実	保護者と連携し、個別指導計画の作成が適切になされているか	2.1	2.2	・校内特別支援教育推進委員会と生徒指導部とが、連携を取りながら、組織的に取り組んできた。 ・通級指導教室と各担任が日常的に情報交換をしたり、通級便りを出す回数が増えたり、きめ細かく連携に努めている。	2.6	・個別指導計画を生かした支援を行い、効果的な支援体制を敷いていく。保幼小中で連携し、一貫した支援や継続した保護者との関わりをもつ。	
		組織的・計画的な特別支援教育体制が確立されているか	2.2					
		関係機関と連携した相談体制の充実が図られているか	2.3					

※評価は、「3」・よくあてはまる 「2」・あてはまる 「1」・あまりあてはまらない 「0」あてはまらない